

令和2年度 山形県立庄内総合高等学校 学校評価書(分掌)	
教育目標	心豊かに、たくましく生き抜く社会人の育成をめざし、知性と情操、自立と連帯、気力と体力を培う
スクール・モットー	『磨こう個性を 拓こう未来を』
目指す生徒像	(1)多様性を尊重し、人との関わりを大切にしている生徒
	(2)自己を理解し、自ら進む道を切り拓く生徒
	(3)高い志を持ち、よりよい社会の創造に貢献できる生徒
経営方針	スクール・モットー『磨こう個性を 拓こう未来を』の下、地域社会と連携しながら公益性の高い愛される学校づくりを推進する。
	(1)キャリア教育の充実と総合学科の特色を活かした魅力ある学校
	(2)生徒の多様な進路を実現する学校
	(3)人とかかわりの中で、思いやりの心を大切にしている学校
	(4)社会に開かれ、地域と連携し、地域に貢献する学校

＜評価の基準＞
A:達成度 80%以上
B:達成度 60%以上
C:達成度 40%以上
D:達成度 40%未満

重点項目	重点取組	分掌	具体的方策	自己評価		課題と改善策等	学校関係者評価 自己評価に対する評価					
				取組と達成状況	評価 中間 年間							
1 授業の充実による確かな学力の育成	①授業改善による学習意欲の喚起と基礎学力の定着	教務	<ul style="list-style-type: none"> ・教室へ授業を受ける時の態度を示す標語を張り出し、授業の場面でも先生方に活用してもらおう。「話す人からだを向けて話を聞く。顔をあげて聞く。話をしないで聞く」 ・研究授業週間を設け、テーマを選択した上で研究授業をしてもらう。 ・ICT活用のための事例の収集と公開を行う。 ・授業時数確保に向けた計画を立案し、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の休業や変則日程があったり、コロナ感染症対策の連絡等が優先されているため、積極的な呼びかけはできなかったが、各教室には標語がはり出され、生徒への意識付けにはなっている。 ・これも感染症対策や遅れた授業の立て直しを優先しているため、実施にいたっていない。 ・グーグルクラスルームの研修会を行った。 ・年度初めに休みに対応した年間計画の再提案をすみやかに行うことができた。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症に対応する授業の手立てに追われ、授業研究まで手が回らない状況であった。また、対面でないと授業に取り組めない生徒も少なからずおり、リモート授業をどのように構成すべきかが今後の課題である。 	何のためのルールか分からないという生徒がいる。大事なことだと思う。学校では校則というルールを押し付けてはいないだろうか。全国で校則が問題になっている。高校生は大人であり、頭ごなしに校則だから守るべきというルールでは通用しない。生徒会などでとことん話し合い、生徒たちが理解できる校則にすべきであり、そうすれば自分たちのルールになると思われる。そうなれば、物を壊したり盗んだりする生徒にみんなが注意するという社会のルールも自然に身につくと思う。				
			進路	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テストを継続的に実施する。 ・レディネステストや進路適性検査の結果などを活用し進路適性を考えさせる。 ・進路課長講話を工夫し基礎力向上を意識づけるとともに仕事や将来について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各年次とも1回目のテストを実施した。3月に2年次が3年一回目を実施予定である。 ・適性検査を実施し、生徒理解や進路指導に活用した。 ・基礎力の必要性を意識づける内容を取り入れた。 	B			B	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの基礎診断に対応しないために来年度は行事として実施予定 		
				生徒保健	<ul style="list-style-type: none"> ・社会のルールや集団生活に必要なマナーを重んじる態度を育てる。 ・学校が安心できる学びの場となるよう、お互いを気遣うことができる心を育てる。 ・服装頭髪指導や言葉遣いなどの指導を通して、「凡事徹底」の確立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に校外での喫煙やマナー違反に関する苦情が寄せられ、徹底できなかった。 ・金銭盗難や定期券の盗難、暴力行為など他人への配慮に欠ける場面があった。 ・ほとんどの生徒は落ち着いた雰囲気で学校生活を送ることができた。 			B		B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会や委員会などを通じて、生徒同士が働きかける場面を増やし、意識の向上を図る。 ・貴重品の管理の呼びかけや行動面で自己を律することができるような指導を心掛ける。 ・一部の徹底できない生徒については、家庭からの協力も得ながら指導していく。
					総務図書	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動推進のため、読書感想文を提出させ(新入生の課題で年度初め、夏休みは全年)読書を促す。 ・読書感想文の優秀者を表彰すると共に、文集を発行する。また、年間の多読者を表彰する。 ・授業やキャリア学習等で図書館を使用できるよう環境を整える。 ・図書館の積極的な活用を推進させるため、親しみやすい環境の整備に努める。 			<ul style="list-style-type: none"> ・年次の協力により感想文提出率は高く、読書感想文県審査に入選を果たした。 ・多読賞を学年末に表彰予定。文集発行に向け取り組んでいる。 ・クラス単位での入室利用は難しかったが、選択授業での活用は例年通り。 ・環境はできうる限り整えている。 		A	
	③図書館の積極的な活用と読書活動の推進	1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・メモを取る習慣をつけさせる。 ・単位履修、修得の意味を理解させ、授業への出席の大切さと学習の必要性、提出物の重要性を叩き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割や科目選択表を貼り付けメモ帳を用意してからSHRを行っている。大半の生徒にメモを取る習慣が身につけてきている。 ・1学期末と2学期中間で欠点がある生徒は3者面談予定。全体の取り組みは非常に良い。 ・提出率は良好だが、提出できない生徒が固定化している。担任の根気強い指導に感謝。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コツコツと指導を繰り返し、ルーティーン化にしていきたい。 ・欠点保持者は3者面談予定。今後の定期テストに向けて指導を繰り返す。 ・提出物を出せない生徒には個別に対応する。 					
		2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の基礎力診断テストの実施と分析を通して、生徒個々と集団の問題点を明確にする。 ・HRを通して学習する集団の雰囲気作りを徹底する。朝学習への取り組みを強化する。 ・資格試験や検定試験への呼びかけを行い、主体的な学習に向けた姿勢を身につけさせる。 ・教科と協力し、読書感想文の課題提出の指導を行う。LHRなどでの図書館利用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期中間において、自覚して成績を向上させた生徒が多かったのは良かった。 ・取組は向上しているように感じるが、生徒の自覚をさらに促すための新たな取り組みが必要。 ・進路意識の向上と絡めて、生徒への働きかけを更に強めたい。 ・コロナ感染症が増えてきたため、図書館利用を制限せざるを得ない。 	B	B			<ul style="list-style-type: none"> ・分析によって対策を講じられなかった。 ・実施メニューを適時的にレベルアップしていく。 ・資格取得への関心を高めるための取組。 ・本を読む生徒が少ない。 			
			3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習を通して、進路実現に向けた基礎力向上の徹底に努める。 ・手帳を活用し計画的に取り組む姿勢を育てながら、資格・検定試験に積極的に取り組ませる。 ・一般常識問題に何度も取り組ませることで、学び直しを進めていく。 ・様々な情報を得るための場所として、図書館の利用を呼びかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻常習者や取り組みの悪い者もいたが、朝学習で一般常識問題や計算、漢字などに取り組み、基礎学力定着を図ることができた。 ・集会時やHRおよび通常の生活でも手帳を利用させようとしたが、利用者は半数程度であった。進路活動に向けて資格や検定を受験する者は多くいた。 ・朝学習を利用し、学び直しの計算と漢字の問題に取り組ませることができた。 ・コロナのため、生徒が集合しやすい図書室の利用を控えさせた。 	A				B	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期途中から朝学習3回遅刻で放課後補習を行ったが、特定の生徒にはあまり効果が無かったようだ。 ・手帳を常に持って集会に参加したのは一部の生徒であった。 ・瀬川先生から作ってもらった計算プリントは効果があった。 ・夏季は冷房があるため、休み時間になると涼みに行く者が多くいた。 	

重点項目	重点取組	分掌	具体的方策	自己評価		課題と改善策	学校関係者評価 自己評価に対する評価	
				取組と達成状況				
				中間	年間			
2 キャリア教育の推進と進路指導の充実	①故郷(ふるさと)と連携した探究型学習の推進 ②社会人基礎力を高めるキャリア教育の充実 ③個々の志望に応じたきめ細やかな指導体制の構築と実効的運用	教務	<ul style="list-style-type: none"> 1年次の科目選択において、自分のキャリア形成につながる主体的に判断できるような資料を作成し、科目選択に役立てさせる。 卒業研究における「地域課題」に目を向けた研究を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア1の時間と1年次の協力を得て実施できた。 庄内町からの協力を得られ、地域や身の回りの課題について目を向け、研究することができた。 	A	A		<p>今年度はコロナもあって学校の状況を感じる事ができない一年だった。しかし、このような中でも「新しい生活様式」を日常に組み入れなければならぬ。こういう時に、柔軟性のある若い力は大変だ。学生が社会に出たときに活躍していける指導を先生方には期待している。</p> <p>保護者アンケートで、総合学科の特色をよく出している学校との評価が年々増えているのは喜ばしい。</p> <p>進路相談の評価が年々上がっているのは、学校全体で就職率100%の学校としての先生方の努力が実っていると思われる。</p> <p>部活動が任意加入になった結果、入部していない生徒の実態はいかかなものか</p>
		進路	<ul style="list-style-type: none"> 就職・進学に対する情報や働き方・生き方についての情報を提供する 生徒が理解しやすい書籍をHRに配置し生徒の仕事観・職業観を育成する。 生徒の進路希望等の情報を共有し生徒一人一人に個別の進路指導を全主体制で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報が入り次第、年次に提示できるようにできた。 生徒が手に取りやすいようなものを選定し、概ね計画通りに配置できた。 年次との連携や個別指導は職員の協力を得て計画通りに実施することができた。進路希望や合格・内定の全体共有が遅くなってしまった。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議で提示していきたい。 	
		生徒保健	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動や委員会活動、部活動などを通して生徒の自主性を育む活動を展開する。 生徒の積極性を引き出し、地域との関わりなどについて自ら行動できるようにする。 カウンセリング体制の充実を図り、必要とする生徒・保護者へ積極的に周知していく。 外部機関と連携して教職員への情報提供や研修会の実施など支援体制の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな制限の中で、何とか学校祭などの学校行事をおこなうことができた。 コロナの影響もあり、地域との関わりを持つ場面が激減した。 SC面談など個別に声掛けを行い、一定の成果をあげることができた。 今後とも生徒理解につながる取り組みを検討していく。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 何ができるのか、どうしたらできるのかを引き続き検討していく。 実施可能なものを判断し、庄内総合高校をPRする場面を増やしていく。 必要としている生徒・保護者に対して、さらなる有効活用を図っていく。 職員研修会等、実施できるものを判断していく。 	
		総務図書	<ul style="list-style-type: none"> 様々な式典を通して、傾聴力の育成を図る。 同窓会との繋がりを通して地域を愛する気持ちを育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年の協力により、式典等での話の聞き方は良くなっている。 コロナの影響等、今年度は触れ合う機会が少なかった。 	B	B		
		1年次	<ul style="list-style-type: none"> メモを取る習慣づけ。 「キャリア総合1」を中心として自己理解を深める。 進路目標の実現に向けた具体的な方法を考えさせる。 2者面談、3者面談を通して生徒理解、保護者理解に努め、科目選択を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> まだ深まりは浅いが、自分自身について考える機会を与えることができた。 予定通りではないが、少しずつ、進路について意識できてきている。 科目選択のミスマッチがないように面談を行った。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップは大成功。年次発表会も大変良い出来であった。自ら志願して発表した生徒が居る。バワポの編集にも積極的であった。 4月5月登校なしの状態での科目選択や面談はハードスケジュールであった。 	
		2年次	<ul style="list-style-type: none"> キャリア総合での活動を通して、進路について具体的に考えることができるように図っていく。 年次集会やLHR等を通じて、進路実現を意識した傾聴力・自己表現力の育成を図る。 総合面談やカウンセリングなどの支援活動を通じて、生徒の自己理解や進路意識の向上を図る。 企業見学を通し、地域との関わりなどについて自ら行動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行が再延期となり、更なる計画変更を迫られ対応に追われた。 まだ自分から前を向けない生徒もいるが、だいぶ前の人の顔を見て話が聞けるようになってきた。 二者面談を実施。担任を中心に生徒との対話を通して信頼関係を築いている。 前半に見送りになった企業見学が実施できた。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 急なメニュー変更の際の、各年次間での使用教室の調整。ダイアリーを購入したが、効果的な使い方ができなかったことが課題。 集団の雰囲気を大切にすることを意識できるような声かけをする。 全体指導とセットで、面談を重視して深く刺さった指導を心がける。 	
		3年次	<ul style="list-style-type: none"> キャリア活動を通し、進路目標を実現するための課題を発見し、解決する力を育成する。 キャリア活動・集会等を通し、傾聴力と各種面接指導に向けた自己表現力の育成を図る。 進路実現に向けた面談など細やかな指導を行いながら、職員間での情報共有を図る。 地域の実情を意識しながら、キャリア活動を通じて進路目標の実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の取り組みが遅くなったが、進路指導を通して課題を解決する力のある程度は育成することができた。 集会等の整列はまだ時間がかかるが、傾聴力、自己表現力はある程度身につけてきた。 情報共有を図りながら生徒に応じた指導をすることができた。 地元志向が強く表れた就職活動で進路目標を概ね達成しつつある。だが、決まっていない者もいる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 年次集会での要点を書きながらの説明は有効であった。 支援員の増員は年次にとって効果があった。 	

重点項目	重点取組	分掌	具体的方策	自己評価		課題と改善策	学校関係者評価 自己評価に対する評価		
				取組と達成状況				評価	
				中間	年間			中間	年間
3 心身の健康と生徒の主体性を活かした活動の充実	①「いのちの教育」をとおした思いやりの心や自己有用感の育成 ②自主的・自律的な特別活動の推進 ③「いじめ防止し基本方針に基づいた取り組みの徹底強化 ④特別支援教育の充実とソーシャルスキルの育成	教務	・義務教育段階の教育内容およびソーシャルスキルトレーニング教材の研究、整理と教員への啓蒙をはかる。	・令和4年度からの教育課程としてソーシャルスキルトレーニングを含めた計画を立案したが、職員間で共有する場をもつことができなかった。	B	C	・令和4年度からの定時制も視野に入れながら特別に支援が必要な生徒への対応の共有、意思統一の機会を設ける。	コロナにより休校に なったり、リモートだっ たりで、学生さんに触 れ合うタイミングが少な く、感じ取れることがな かった。私たちの社会 の中でも、家から出ら れない、会話をしない 生活になり、やる気ス イッチが入りにくくなっ ている。学生さんはどう したのだろうか。世の 中新しい生活スタイル に変化していく。仕事 のやり方に変化が求め られている。若い人の 柔軟な考えが大切に なっていくだろう。ぜ ひ、新しい学校になる ので、それらを伸ばす 学校になってほしいと 思っている。	
		進路	・職員室の出入りや廊下ですれ違う際の挨拶の励行 ・ビジネスマナーアップ講座を開催し社会人としてのマナーを身に付けさせる。	・進路講話や各年次で呼びかけを行うことで、挨拶を行う生徒が増えた。 ・社会人としてのマナー講座を受講し、進路活動に生かすことができた。	A	B			
		生徒保健	・様々な行事、活動を通じて、生徒会・各種委員会・HR活動の充実、活性化を図る。 ・自他の生命を尊重する心を育て、「いじめを絶対に許さない」環境づくりを行う。 ・年次団との連携やSC面談を通して、心身の健康に課題を持つ生徒の支援を充実させる。	・様々な工夫をしながら、何とか生徒が活躍する場面をつくることができた。 ・「いじめ」関連で指導する生徒が年々減少している。 ・感染症予防に関する指導を徹底して行うことができた。 ・必要に応じて、様々な場面で生徒への支援ができた。	B	A	・今後とも生徒が主体となって活躍できる場を積極的につくる。 ・生徒の不安や悩みについて、相談しやすい体制づくりの充実を図る。 ・校外においてもマナーを守るなど、規律ある行動ができるよう指導していく。 ・支援を必要とする生徒の情報収集に努める。		
		総務図書	・式典での礼法指導を通して、挨拶やマナーを身に付けさせていく。 ・避難訓練だけでなく、普段から防災対策への意識を持たせていく。	・各年次の協力により良くなっているが、挨拶について向上させていきたい ・今年度はコロナによる呼びかけにより意識は高くなった	B	B			
		1年次	・名前を呼ばれたら「はい」という返事、何事に対しても「ありがとうございます」の感謝の言葉を発する習慣づけ。 ・誰に対しても気持ちの良いあいさつができる習慣づけ。 ・部活動は任意加入だが、積極的に参加するように進める。(3年間部活動を続ける大切さの理解) ・早寝早起き朝ごはん。	・毎朝の出席確認は呼名、返事をさせることができた。 ・まだまだ、自分から明るく挨拶できる生徒は少ない。 ・部活動に加入した生徒は生き生きと活動している。 ・JRが乱れても送ってもらって登校する生徒が多くいる。	A	A	・今後も毎朝出席確認は呼名を行い返事をするを習慣化していく。 ・教員側から明るく爽やかな挨拶で大人の魅力を見せつけて、マネしたくなるように仕掛ける。		
		2年次	・あいさつの意識を高め、あいさつの具体的方法を示すことで、自ら挨拶をする雰囲気醸成する。 ・自他双方を大切に必要性をあらゆる場面で問いかけ、「思いやり」の重要性を考えさせる。 ・学校行事、生徒会活動、部活動に対して、自主的かつ積極的に参加する雰囲気作りを努める。 ・いじめにつながる生徒間の関係の変化を注視し、いじめに発展する前に関係改善を図るよう努める。	・2年生になってだいぶ自覚が出てきたようだが、挨拶のスキルアップを図りたい。 ・年次の行事などを通して、トゲトゲした雰囲気はなくなってきていると感じる。 ・部活動への加入が低下したのは残念だが、頑張っている生徒も多い。 ・人間関係に問題点はつきものであるという観点に立って、深刻ないじめになる前に情報収集し対応を図っている。	B	B	・進路希望達成の指導の中で、挨拶スキルを高めさせる。 ・落ち着いた雰囲気、進路活動を進められるよう配慮する。ロッカーの鍵の使用が徹底できなかった。 ・最終年次で、各行事において完全燃焼できるようサポートしたい。 ・更なる心理的な成長を意識していきたい。		
		3年次	・あいさつと身だしなみについては、習慣化できるよう指導を継続していく。 ・常に目を配りながら、善悪の判断を身に付けさせるとともに、一方的な指導とならないようにする。 ・生徒会活動、学校行事でのリーダーシップを育成することで、自主的・自律的行動の基礎を育成する。 ・学校生活を通して、他者に配慮する姿勢を身に付けさせていく。	・ピアスが増えていて身だしなみについては継続して指導している。だが、服装に関しては、年度当初に比べできるようになった。 ・金銭盗難、体育館の使用の仕方が悪い、男女カップルがいちゃつく、それに特別指導になる者がいて、指導がたいへんであった。生活面での指導は継続中。 ・リーダーシップを発揮する場面が少なく残念であった。生徒会活動や部活動で、1、2年次生をまとめようとする姿勢は見られた。 ・他者に配慮する姿勢は、年度当初に比べ少しずつであるが身につけてきているようだ。	B	B	・2、3組でロッカーのカギを購入した。2学期途中から空き時間に教室を施錠したのは、防犯のために効果があった。 ・支援員による支援が有効に働いた。		

重点項目	重点取組	分掌	具体的方策	自己評価		課題と改善策	学校関係者評価 自己評価に対する評価		
				取組と達成状況				評価	
				中間	年間			中間	年間
4 地域連携と開かれた学校づくり	①家庭や地域との連携・協働による教育活動の推進 ②新たな学校づくりへの適切な対応 ③学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	教務	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を行いながら、本校の様子や入試についてのわかりやすい情報公開を行う。 ・ホームページ活用を推進するとともに、円滑な更新を行う。 ・個人情報について、十分な配慮のもと、適正に取り扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールは中止。10/3に保護者向け説明会を実施、11/2に中学校教員向け説明会を実施。 ・適宜、情報を発信できている。 ・年度初めに生徒保護者への文書を配布した。 	-	A		<p>HP活用について、閲覧が少ないとのことだったが、見て楽しい遊びのページを作ってみてはどうか。今年のHPで「トロの木」があったが、一見学校とは関係がないと思ったが、学校に興味を持ってもらうには十分だったのではないかと。また、先生方だけではなく、生徒に自由に作らせて日替わりで書き込みをさせてもいいのではないかと。まずは、保護者が面白いと思うようなHPを見ることが先決だ。</p> <p>地域との関わりやボランティア活動の保護者評価が下がっている。コロナ禍の中で3密対策やリモートなどで努力されているようなので、もっとアピールするとともに、さらに積極的に活用してほしい。</p> <p>コロナ禍において、インターシップや地元企業との交流会を、工夫しながら実施できたことはよかった。</p>	
		進路	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA進路部会による模擬面接の実施 ・就職や進学に関する外部のセミナーや講演会の企画 ・高校生と地元企業による交流会の企画・運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のご協力のもと、計画通りに実施することができた。 ・コロナ禍の影響で、例年通りにはいかなかったものの、会場や環境整備に配慮しながら実施することができた。 ・5月の実施はコロナの影響で中止となった。2月に28企業が来校し1. 2年次対象に実施予定。 	A	A			
		生徒保健	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ボランティア活動や地域行事などへの参加を積極的に行い、地域の一員としての態度を育てる。 ・地域へ学校をPRするための広報活動を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響があり、活動が制限された。 ・HPや生徒会新聞等を有効活用することができた。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなことができるか、実施方法を検討していく。 ・今後とも積極的な情報発信に努める。 		
		総務図書	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA評議員と連携し、保護者が学校教育に興味関心を持つような工夫をする。 ・PTAや同窓会の広報誌をホームページに掲載していく。 ・マメール登録を呼びかけ、緊急時や行事連絡等の情報発信に活用し、効果的に活用できるように管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年次や各課の協力を得て、3つの部会を中心に活動できている。 ・随時ホームページに記載した。 ・今年度は情報発信の機会が多く、登録者が多くなった。 	B	A			
		1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動を楽しむための工夫。 ・年次便り「まいどおおきに！」やホームページを活用し、保護者に学校の様子を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会は紙面で行い、年次PTAは夏休み中に図書室で行った。 ・年次便りは12号まで発行できた。 ・PDFにしてホームページアップした。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・懇親会は開催できないか？ 修学旅行についての考え方も検討したい。 ・定期的に発行する。 		
		2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・年次PTAやクラスPTAの開催を通して、保護者との共通認識で指導に当たることができるように努める。 ・LHRなどを通してボランティア活動を計画的に実施する。 ・年次便りの定期的発行とホームページでのタイムリーな情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月の年次PTAには多くの出席を得た。修学旅行に向けて忌憚のない意見を出していただいた。3月に開催予定のPTA進路研修会を実現したい。 ・新型コロナ感染症対応で、企画する踏ん切りがつかなかった。 ・毎月ではないが、要所での発行ができている。HPも情報発信に努めている。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・マメールの完全登録まで行かなかったのも、三者面談で依頼する。 ・コロナの収束を願いつつ、コロナ禍でも可能なボランティアの方向性を探りたい。 		
		3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けた担任と生徒・保護者との共通理解と連携に努め、年次PTA活動へ協力を進める。 ・年次だよりを通じて年次の様子や進路情報の発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響のため、PTA活動への積極的な連携の場は持てなかった。しかし、進路実現のため面談や連絡をこまめに取ることで、担任と保護者との連携はうまくいった。 ・現在9号発行している。発行回数は多くはないが適宜情報発信に努めることができた。 	B	B			
						B	B		